女性呼吸器外科医師の職場における環境や問題点を把握する実態アンケート調査
報告書

2020 年 7 月 17 日

日本呼吸器外科学会

男女共同参画女性医師支援部会

中原 理恵、前田 寿美子、松本 卓子、井坂 珠子、岩田 剛和、大久保 憲一、大瀬 尚子、
土田 正則、中島 淳、中村 廣繁、長谷川 誠紀、吉井 直子、吉野 一郎、千田 雅之

要旨

日本呼吸器外科学会の男女共同参画女性医師支援部会では、女性呼吸器外科医師の支援を行うための問題点を把握する目的に 2016 年に全呼吸器外科学会員・基幹施設修練責任者もしくは関連連絡責任者・女性医師を各対象としたアンケートを施行した。回答率は全会員の 13.7%、女性会員の 24%であった。女性呼吸器外科医師は、男性と比べて専門医や学位の取得が遅れる傾向があり、自分の経験・業績に関する少なさを感じる割合も多く認められた。配偶者・パートナーがフルタイム勤務をしている割合も女性で多く認められた。妊娠出産育児経験もしくは予定のある女性の 7 割は臨床現場へ復帰可能な期間を 1 年と回答し、施設責任者や経験もしくは予定のない女性の回答と比べて短く、早期の復帰サポートが必要と考えられた。今回のアンケート結果を踏まえ、日本呼吸器外科学会としてサポート可能な対策を立てていく必要がある。

はじめに

日本呼吸器外科学会は 2015 年 10 月より男女共同参画女性医師支援部会を立ち上げ、部会員 13 名（男性 7 名：女性 6 名）で活動を開始している。本学会における女性会員の数は徐々に増加しており、女性呼吸器外科医師が仕事を継続していくための支援を行うことを目的としている。

女性呼吸器外科医師の支援をどのように行っていくか検討するため、2016 年 11 月に女性呼吸器外科医師の職場における環境や問題点を把握するためのアンケート調査を実施した。職場環境から家庭環境など、多岐にわたる質問を含むアンケートとなり、回答いただいた会員の方には感謝申し上げたい。

今回、アンケート調査の結果をまとめたので、報告する。

I. 調査の概要

1. 調査の目的

女性呼吸器外科医師の職場における環境や問題点を把握する。

2. 調査の対象

日本呼吸器外科学会に所属する医師。

3. 調査の方法

日本呼吸器外科学会男女共同参画女性医師支援部会より学会員へメールにてアンケートを依頼。日本呼吸器外科学会ホームページ上の会員マイページにアンケート回答フォームを設置し、期限を区切って回答を得た。

- ・ 回答対象者 3194 名
- ・ 回答者 438 名
- ・ 回答率 13.7%

4. 調査の内容

別紙記載

5. 調査の時期

2016 年 11 月 21 日～12 月 22 日

6. 報告書のとりまとめ

日本呼吸器外科学会男女共同参画女性医師支援部会にて行った。

Ⅱ. 結果

(1) 学会員全員向けアンケートA

【回答者の属性】

年代と医師経験年数については、男女別に解析した。また、性別については、回答対象者に対する回答者の割合も分析した。

1.年代

41 歳～50 歳の年代がもっとも多く認められた。女性医師の割合は、年代が低くなるにつれて増加し、31 歳～40 歳では 30%、30 歳未満では 40%となっている。

2.経験年数

15 年～25 年が多いが、女性医師の割合は 5 年～15 年の群で多い傾向がみられる。

3.性別

男性 379 名、女性 58 名から回答を得たが、記載なしが 1 名いた。回答対象者である呼吸器外科学会員の男女別の回答比率ではやや女性医師からの回答が多い。また、学会員の性別不明者が 412 名おり、多くは男性であると想定されることから、実際の男性医師の回答率はさらに下がと予想される。

【回答者の資格取得状況や勤務および周辺環境について】

資格取得や更新状況、および勤務環境や周辺環境について、質問した。解析は、男女別、年代別に行っている。

4. 呼吸器外科医として勤務しているか

男女別、さらに年代別に分析した。女性は男性と比べて、呼吸器外科学会会員であっても呼吸器外科医として勤務していない割合が高く、40 歳以下では 20% が呼吸器外科医として勤務していない。男性は各年代を通して、90% 以上が呼吸器外科医として勤務していた。

5. 基幹施設修練責任者もしくは関連施設連絡責任者であるか

男女別、さらに年代別に分析した。男性は年代が上がるにつれて各施設の指導的立場となる割合が増えているが、女性は圧倒的に少ない。

* 30 歳以下の 1 名が「はい」と回答していたが、記載間違いとして解析から外している。

6. 資格取得の有無

6-1 呼吸器外科専門医

男女別、さらに年代別に分析した。各年代とも一定数専門医を取得していない群がみられるが、40 歳以下では男性の 64% が呼吸器外科専門医を取得しているのに対し、女性は 22% しか取得していなかった。

6-1-1 呼吸器外科専門医を取得していない理由

「取得したい」「取得しようと思わない」「取得できそうにない」から選択回答とした。取得していない群の人数が少ないため、年代は40歳以下と41歳以上に分け、さらに男女別で分析した。40歳以下では、男性の93%が取得したいと回答している一方、女性の70%が取得したいと回答しているが、取得できそうにないという回答も26%みられた。41歳以上では男性の35%が取得できそうにないと回答している。

6-1-1-1 呼吸器外科専門医を取得できそうにない理由

専門医取得条件をもとに、「手術」「論文」「学会発表」「学会参加」「その他」から複数回答とした。男女別に理由をみると、女性では手術と学会発表が理由として多く認められた。この部分をサポートすることで女性医師が呼吸器外科専門医を取得しやすくなる可能

性がある。また、データは女性が 40 歳以下、男性が 41 歳以上と偏っていることを留意する必要がある。

6-1-2 呼吸器外科専門医を取得した場合、更新は可能か

呼吸器外科専門医の更新は、できると回答した率が男性で 81～90%、女性で 50～72% となり、どの年代でも女性は男性と比べて更新できないと回答する率が多くみられた。

6-1-2-1 呼吸器外科専門医の更新ができそうにない理由

専門医の更新条件をもとに、「手術」「論文」「学会発表」「学会参加」「その他」から複数回答とした。男女ともに論文を理由に挙げる場合が多く、次いで手術となった。年代背景は男女に違いはなく、理由に男女の違いも認められない。

6-1-3 呼吸器外科専門医を更新できなかった場合、認定専門医を取得したか

半数以上が未回答のため評価は困難だが、男女ともに「取得した」という回答数が「しなかった」よりも多く認められた。「しなかった」理由として、必要ない状況であったという理由が 3 名（男性 2 名・女性 1 名）であげられた一方、取得したいができなかったという理由が 2 名（男性 2 名）であげられた。

6-2 呼吸器外科評議員資格

男女別、さらに年代別に解析した。男性では 40 歳以下でも評議員資格を取得しており、41 歳以上では取得率が 60～70%に上っている。一方、女性では 40 歳以下で取得した人はおらず、41 歳以上でも 40～50%にとどまっていた。

6-2-1 呼吸器外科評議員資格を取得していない場合の理由

年代が上がるにつれて男女とも「取得したい」群の割合は減少傾向であった。しかし 40 歳以下では女性の 43%、男性の 81%が「取得したい」と回答し、倍近い差が見られている。また、41 歳以上では女性の 56%、男性の 41%が「取得したいができそうにない」と回答した。

6-2-1-1 呼吸器外科評議員資格を取得できそうにない理由

「評議員資格を取得できそうにない」とした理由を自由記載で回答してもらい、女性 13 名中 10 名、男性 47 名から回答を得た。内容を「業績全般」「学術活動（論文・学会）」「論文」「手術」「その他」の 5 項目に振り分け、男女別に解析した。男女とも半数は「業績全般」による理由を挙げていた。また女性 10 名中 4 名は出産・育児のための実績不足を挙げていた。

図 6-2-1-1 評議員資格を取得できない理由

6-2-2 呼吸器外科評議員資格を取得した場合、更新できるか？

女性は評議員取得者が少なく、全員更新可能と回答した。男性は年齢群があがるほど更新できないという割合が増えているが、その理由は「病院管理者で学会活動困難」「年齢制限」などが多く挙げられた。

6-3 外科指導医資格

40 歳以下の群では「取得していない」という回答が男女とも圧倒的に多いが、41 歳以上では男性は 65～78%と高率に「取得している」。一方、女性は 41-50 歳で 30%、51 歳以上は 2 名とも取得していなかった。

6-3-1 外科指導医を取得していない場合の理由

男性は 40 歳以下の 86%が「取得したい」と回答しているが、年代があがるに従いその割合が減少している。一方、女性は 40 歳以下、41-50 歳の群でも 21～23%が「取得しようと思わない」と回答している。「取得しようとおもわない」の理由として、男性の 43%、女性の 22%が、必要性を感じないと上げていた。

6-3-1-1 外科指導医を取得したいができそうにない理由

外科指導医の取得条件をもとに、「手術」「論文」「学会参加」「その他」から複数回答とした。男女とも「論文」を理由にあげた率が多いが、男性で特に「論文」の理由が多く、2 番目に多い理由は女性で「手術」、男性で「学会参加」が挙げられた。

6-3-2 外科指導医を取得した場合、更新できそうか

女性で指導医を取得している数が少なく評価が困難であるが、40 歳未満では全員が「更新できそう」と返答している。一方、年代が上がるにつれ、「取得できそうにない」と回答する率が増加している。

6-3-2-1 外科指導医を更新できそうにない理由

論文を理由に挙げる場合が多くみられた。男性の「その他」の理由としては、開業や体調不良、海外長期派遣などで外科医の業務を離れている場合が殆どであった。

7. 学位取得の有無

医学博士、もしくはその他学位取得も含めて回答してもらった。取得した学位のほとんどは医学博士であり、男性 1 名に医工学博士号取得の回答が得られた。医学博士の取得の有無につき、男女別年代別に検討した。40 歳以下での学位取得ありは、男性 42%に対して女性は 11%にとどまっていたが、41-50 歳の群では男女ともに 80~82%とほぼ同程度の取得率となっている。女性の取得年代は男性と比べて遅いことが示唆される。

7-1 学位取得していない場合の理由

50 歳以下の群では、女性で「取得できそうにない」という回答率が男性よりも多く認められた。また、40 歳以下では「取得したい」という回答が男性 82%に対して女性は 55%にとどまっている。

7-1-1 学位取得しようと思わない理由

「学位取得しようと思わない」理由を自由記載にて回答してもらった。女性 9 名中 8 名、男性 28 名中 23 名から回答を得た。内容を「必要性・メリットがない」「時間や体制がない」「その他」に振り分けて解析した。男性、女性とも、「必要性・メリットがない」という回答が、ほぼ 3/4 をしめた。

図 7-1-1 学位取得しようとおもわない理由

8. 現在の仕事場所

現在仕事をしている職場の種類を、項目別に選択してもらい、年代別、男女別に分析した。男女とも大学病院やその他の呼吸器外科修練・認定施設で仕事をする割合がもっとも多くみられた。その他の詳細内容として、女性は 40 歳以下の 2 人が産休・育休中と回答しており、男性の 40 歳以下の 2 人が海外留学中と回答した。その他でもっとも多くみとめられた内容は認定施設でない一般病院勤務（計 16 名）であった。

図 8 現在の仕事場所

8-1 現在の仕事場における職位

現在の仕事場所における職位を、項目で選択してもらい、年代別、男女別に分析した。

男性、女性とも、年代があがるに従って職位も上位の割合が増えている。しかし、女性では管理職が認められなかった。

図 8-1 職位 (男女別)

8-2 現在の職場をどのように決めたか

現在の職場をどのように決めたか、各項目で回答してもらい、年代別、男女別に分析した。40歳以下では男女とも大学からの派遣・出向が多くみられた。この傾向は男性では年代を問わずに同様であったが、女性では41歳以上で自分で就職を決めた割合が男性よりも多く認められている。

図8-2a 現在の職場の決定理由 (男性)

	51歳以上	41-50歳	40歳以下
大学からの派遣・出向	102	96	55
自分で就職	36	43	21
その他	8	4	3

図8-2b 現在の職場の決定理由 (女性)

	51歳以上	41-50歳	40歳以下
大学からの派遣・出向	1	3	24
自分で就職	1	4	9
その他			1

9. 仕事の形態

仕事の形態について、「常勤」「非常勤」「無給もしくは大学院生」の3項目を選択して回答してもらい、年代別、男女別で解析した。女性は40歳以下、41-50歳でそれぞれ男性よりも非常勤の割合が多く認められた。

9-1 勤務形態

勤務形態について、「フルタイム当直あり」「フルタイム当直なし」「時短勤務もしくは週数日勤務」「単発アルバイトのみ」の4項目を選択して回答してもらった。常勤と回答した男性350名、女性45名について、年代別・男女別に解析した結果、男性では年代が上がるにつれてフルタイム当直なしの割合が増加した。一方女性では、40歳以下、41-50歳のそれぞれの年代ともに約半数がフルタイム当直なしの勤務形態であった。非常勤、無給/大学院生については男女別のみで解析し、非常勤でも男性はフルタイム当直ありの勤務形態が多くみられた。また、無給/大学院生でも男性の約1/3はフルタイム当直ありの勤務形態であった。

9-2 勤務内容

勤務内容について、各項目について複数回答可として答えてもらった。男女別、また年代別で集計した。女性は 51 歳以上が少ないことから、2 群をあわせて 41 歳以上として集計した。横軸

最大値は各群における母数としている。男性は、年齢が上がるにつれ、当直夜間コールや研究活動は少なくなり、教育活動や経営管理業務が増加している。一方、女性は40歳以下でも当直夜間コールが少ない傾向であり、どの年代でも経営管理業務は少ない。

10. 同居している人について

同居している人について回答してもらった。「同居人なし」は単身赴任などでの別居も含まれる。男女別で解析したところ、女性では各年代とも同居人なしの割合が男性より多く認められた。また、同居している人の詳細を複数回答してもらい、男女別で解析した。母数に違いはあるが、女性では父母もしくは祖父母と同居している割合が男性よりも多く認められた。

10-1 配偶者もしくはパートナーについて

配偶者もしくはパートナーについて、「いる（同居）」「いる（別居）」「いない」の項目で選択回答してもらった。女性では男性と比較して「いない」の割合が多く、「いる（同居）」の割合が少ない傾向であった。また、配偶者もしくはパートナーの勤務形態は、同居、別居の場合で傾向に違いはなく、女性の配偶者もしくはパートナーにフルタイム勤務が多くみられた。同居の場合は、各年代別に比較しても、同様の傾向であった。女性の51歳以上群では「いる（同居）」と回答した件数が0のため図から省いている。

10-2 子供（未成年に限る）について

子供（未成年に限る）の有無について、「いる（同居）」「いる（別居）」「いない」の項目で選択回答してもらった。「いない」と回答した割合が女性に多く認められた。

また、自分が勤務中の間、未就学児、小学生以上の子供それぞれを誰がケアするか、各項目を複数回答可として答えてもらったところ、配偶者もしくはパートナーと回答する件数が、男女間で大きく差が認められた。勤めていない配偶者もしくはパートナーの差がそのまま表れていると推測される。

図10-2 a 子供の有無（男女別）

図10-2b 未就学児のケアを誰がする？（男性）

図10-2d 小学生以上の子供のケアを誰がする？（男性）

図10-2c 未就学児のケアを誰がする？（女性）

図10-2e 小学生以上の子供のケアを誰がする？（女性）

10-3 介護を要する人について

介護を要する人があるかどうかを質問した。年代別、男女別で解析し、男性に「いる」という回答が多く、また年代があがるにつれて比率も増えた。同居かどうかを質問し、男性 3 名で同居という回答があり、いずれも勤務中のケアする人は配偶者・パートナーであった。ケアする人を複数回答で答えてもらい、施設入所がもっとも多く認められた。

11. 職場の保育所について

職場に保育所があるか質問した。男女とも 80% の前後で職場に保育所があると回答しているが、「利用できる・した」かどうかについては女性で割合が多く認められた。保育所の対応については、24 時間保育への対応は 2 割、病児保育への対応は 4 割で認められた。質問 8 で回答された現在の職場を「大学もしくは大学病院」「大学以外の呼吸器外科修練・認定施設」「その他」と分けて対応の有無を分析すると、病児保育への対応は「大学もしくは大学病院」でもっとも多く認められたが、24 時間保育への対応はどの職場でもほぼ 10～20% と低い状況であった。

12. 呼吸器外科を志望した理由

理由とする項目を複数回答で答えてもらい、男女別に解析した。男女とも「純粋に呼吸器外科学に興味があった」と選択する割合が最も多く、その他の傾向も大きな違いは認められないが、女性で「他の外科よりも肉体的に勤務がきつくなさそう」を選択する割合が男性よりも多くみとめられた。

13. 今後のキャリアアップについて

今後のキャリアアップについて不安があるかどうかを質問した。男女別・年齢別に解析したところ、50歳以下の女性では男性とくらべて「不安がある・あった」と回答する割合が多く認められた。人間関係やキャリアの悩みを相談できる人については、男女とも同程度の割合で「いる・いた」と回答している。一方、その相手として、同性上司の割合は男性で多く、異性上司の割合は女性で多くみられた。

図13a-1 キャリアアップへの不安（男性）

	51歳以上	41-50歳	40歳以下
不安ない	70	59	34
不安なかった	18	9	2
不安ある・あった	57	74	41

図13a-2 キャリアアップへの不安（女性）

	51歳以上	41-50歳	40歳以下
不安ない	1	2	2
不安なかった	0	1	0
不安ある・あった	1	16	31

図13b 人間関係やキャリアの悩みを相談できる人があるか？

図13c 人間関係やキャリアを相談できる人（男性）

13-1 国内外への留学や研修の機会が与えられているか

ほぼ同程度の割合で男女とも「与えられている」と回答している。

14. 配偶者もしくはパートナーが転職や転勤で遠隔地へ職住変更となった場合

女性は男性よりも「現在の職場継続」を選択する率が低い傾向であったが、転居後も呼吸器外科を継続したいという希望は多く認められた。

15. 自分の経験や業績について

経験や業績について年代別、男女別に解析したが、執刀数、学会発表、論文、いずれも 50 歳以下の女性群で「少ない」と回答する割合が多く認められた。51 歳以上の女性については 2 名のみのため参考値と考える。

16. 上司からの指導

上司からの指導を十分に受けていると感じるかについては、男女別の解析では大きな差は認めず、年代別を加えた解析を行っても、男女間で大きな差は認めなかった。

17. 手術の技術向上、学会発表、論文作成などを行うことについて

手術の技術向上、学会発表、論文作成などを行うことについての考え方は、男女別の解析では大きな差は認めず、年代別を加えた解析を行っても、男女間で大きな差は認めなかった。

図17b-1 手術の技術向上・学会発表・論文作成など(男性)

図17b-2 手術の技術向上・学会発表・論文作成など(女性)

18. 将来、診療科の長など、責任ある立場に就きたいとおもうか。

男性と比べて女性は就きたいと思わない傾向が、各年代とも高く認められた。男性では各年代とも「おもわない」という回答が5～15%であったのに対し、特に40歳以下の女性では約60%で「おもわない」という回答がみられた。

図18a 将来責任ある立場に就きたいか(男性)

図18b 将来責任ある立場に就きたいか(女性)

(2) 基幹施設修練責任者もしくは関連連絡責任者向けアンケート B

アンケート A 質問 5 において「基幹施設修練責任者もしくは関連施設連絡責任者である」と回答した 199 名が対象となる。

【回答者背景】

アンケート A から得られるデータで背景を分析した。

＊性別 女性の割合は 2% であり、ほとんどが男性であった。性別未記載が 1 人おり、アンケート A の解析は男女別分析が多いため解析からはずしているが、アンケート B では含めて解析した。

＊年齢

＊資格

資格	あり	なし
呼吸器外科専門医	192	7
評議員資格	145	54
外科指導医	152	47
医学博士	177	22

＊施設種類

施設種類	
大学・大学病院	52
大学以外の呼吸器外科修練・関連施設	144
その他	3

1. 呼吸器外科医の勤務状況人数（男女別・常勤/非常勤別）

186 施設より回答を得た。

1 施設内に何人の呼吸器外科医がいるか（施設規模）、を示したのが表 1 である。

これによると最頻値が 2 人、3 人となっており、日本の呼吸器外科はおおむね 2～3 人規模の施設が中心であることが分かる。

また、各施設における女性呼吸器外科医の人数と、施設規模との関係をみたのが表 2 である。

女性医師数を 0 人、1 人、2 人以上の 3 群にわけると、女性医師 0 人の施設は最多の 128 施設であり、施設規模は平均 3.3 人であることが分かった。女性医師が 1 人いる施設は 43 施設で、その施設規模は平均 4.8 人、女性医師 2 人以上と回答した 15 施設の施設規模は平均 10.7 人であった。この結果から、女性医師は、規模がおおむね 5 人以上の施設に所属していることが分かる。

実際、施設規模が 1～3 人の施設に女性医師が所属している施設数は、13 施設（186 施設中の 7%）にとどまった。

一方で、女性医師 1 人のみという施設 1 施設を含め、施設規模に定める女性医師割合が 30%を超える施設は 17 施設あった。

表 1 呼吸器外科医師数別施設数と女性医師数別施設数

施設合計人数		施設内女性	
1 人	19	0 人	128
2 人	44	1 人	43
3 人	35	2 人以上	15
4 人	27		
5 人	15	非常勤のみ	12
6 人	16	常勤 1 人以上	46
7 人	10	大学病院	19
8 人	10	大学病院以外	27
9 人	3		
10 人以上	7		

表 2 施設規模と女性医師数

	女性医師 0 人	1 人	2 人～
施設数	128	43	15
平均施設内人数	3.3	4.8	10.7
最頻（人）	2	4	8
最小（人）	1	1	4
最大（人）	17	20	33

2. 女性医師への配慮について

2-1 手術執刀件数

「配慮する」理由

• 妊娠・育児	49
• 家庭での役割・家庭の事情	9
• 体力	5
• 離職を防ぐため	3
• その他	

「配慮しない」理由

• 執刀機会は男女平等	26
• 独身女性であるから	6
• 性別ではなく技量を考慮す	3
• その他	

2-2 当直・休日勤務回数

「配慮する」理由

• 妊娠・出産・育児	50
• 家庭での役割	5
• 体力・筋力不足	5
• 執刀医としての心構えが不	3
• 社会の要請、医師不足解消のため	3
• その他	

「配慮しない」理由

• 男女平等	26
• 独身女性であるから	6
• 出産や育児中でないため	6
• その他	

2-3 学会発表・論文発表の機会

「配慮する」理由

• 出産・育児のため負担軽減が必要	10
• 資格取得や業績確保のため	9
• 積極的ではない	
• 手伝いが必要	
• できるだけ簡単なもので発表させた	
• その他	

「配慮しない」理由

• 男女平等	22
• 個人のやる気の問題だから	22
• 時短勤務でも（家でも）できるから	8
• 体力がなくてもできることだから	3
• 配慮する必要性を感じない	
• その他	

2-4 管理・マネジメントの経験

「配慮する」理由

- 男女差がつかないように、年次相当 10
- 後進の育成のため 9
- 女性医師のロールモデルとして
- 本人の志に応じて
- その他

「配慮しない」理由

- 男女平等
- 性別ではなく個人の技量による
- 希望する女性はいるのでしょいか？
- 女性には無理なのでは？
- その他

2-5 生理休暇・体調不良

「配慮する」理由

- 当然、男性であっても同じ 34
- 女性特有なのでやむを得ない 12
- 手術・業務に支障がある 8
- 法的権利、労働安全上の対応
- 無理はさせられない、やめるから
- 配慮が必要なら外科医を遠慮願いたい
- その他

「配慮しない」理由

- 男女の区別なく対応している 6
- 本人の申し出により対応する 4
- 不平等にならぬよう最低限の配慮
- その他

手術執刀件数や当直・休日出勤回数、生理休暇・体調不良などの点では、「配慮する」という回答が多く認められた。

3. 男女問わず、業務の軽減が必要な医師が発生した場合（産休・育休・病休・介護休など）について

3-1 どのように対応したか、あるいは対応しようとするか

他のメンバーで業務を分担する、という回答が 68%と最も多く認められた。

表 3 業務の軽減が必要な医師が発生した場合の対応

対応策	
他のメンバーで業務を分担して負担する	126
何らかの形で増員して、他のメンバーの負担が増えないようにする (どこからか診療応援を依頼、同一施設の 他診療科に応援依頼など)	38
診療科全体の業務量を減らして、 他のメンバーの負担が増えないようにする	16
その他	6

3-2 サポートする側の医師への配慮

「配慮している」具体的な内容

- スタッフ間のコミュニケーションを密にする、声掛けをして励ます 12
- お互い様であると論ず、チーム医療の重要性を説く 10
- 超勤支払、手当増額、休暇取得 10
- キャリア面の優遇、院内地位向上 5
- 自分が負担をかぶっている 4
- 執刀や発表の機会を与える
- その他

4. 修練中の呼吸器外科医が諸事情で臨床現場を離れる場合（留学、出産・育児、病期休養、介護など）何年までなら復帰は可能であると考えてるか

最も多かった回答は「2年」31.7%であり、3年までが約8割を占めていたが、「4年以上」も21.1%認められた。

5. 女性の呼吸器外科医が修練している過程で、配慮が必要とおもわれることをあげてください
(自由記載)

- 妊娠・出産・育児による業務負担軽減
- 体力面・精神面での配慮、生理・体調不良への配慮
- 当直室・トイレなど男女別々の設備
- あらかじめ出産・育児・家庭を考慮した修練ペースを検討すること
- 復職後に時間をかけてサポートすること
- 欠勤、休職に対する組織的サポート体制
- 差別も逆差別もしないこと
- パワハラ、セクハラを与えない、与えさせないこと
- 定時上がりできるような回診、会議の時間調整
- 仕事以外のつきあい（飲み会など）を無理強いしない
- 居心地のよさ
- 相談できる同性の上司
- 女性も様々なので、個人の希望を考慮すること
- 修練中は技能の獲得が達成できるまで臨床修練を最大の目標とするべきである
などなど

6. 管理者（回答者）がこれまでに女性医師の振る舞いや対応処遇で困ったことがあるか

「ある」の具体的な内容

• 人事・派遣先	7
• 感情的である、情緒不安定	7
• 急な早退と欠勤	4
• 周りの負担増	5
• 配慮されて当然の態度	3
• 弱さを盾にした行動をとる	2
• 他の医療従事者とのトラブル	3
• 女性特有の悩みに対応できない	2
• 体力不足	1
• その他	

6-1 同僚男性医師の女性医師に対する態度で困ったことがあるか

「ある」の具体的な内容

- セクハラ 7
- 不倫 2
- 女性医師に対する厳しい態度や見下した態度 5
- 負担増・女性優遇に対する不満 3
- 同僚男性がストレス障害になった
- 男性より女性同士の方が厳しい

7. 男女の呼吸器外科医が同時期に回答者の施設にいる場合、執刀の機会や学会活動の機会は経験年数に応じて、偏りなく与えたか

「いいえ」の理由

- 女性医師の家庭事情を配慮して（時間的余裕）、分配する。
- 妊娠、子育てと両立するためには、時間をかける必要がある

8. 女性の呼吸器外科医が、男性と比べて劣っていると感じる点はあるか

「ある」の具体的な内容

- 体力・筋力 20
- 手術中の集中力、気迫や覚悟 2
- 技術 1
- 情緒不安定・感情的 1
- 組織管理能力・マネジメント能力 1

9. 女性の呼吸器外科医が、男性に比べて優れていると感じる点はあるか

「ある」の具体的な内容	
・ 細やかな配慮・共感力	12
・ 仕事が丁寧・緻密	8
・ 優しい対応	7
・ 女性患者に安心感を与える	6
・ 意外に器用/手が小さく小開胸で有利	3
・ コミュニケーション力が高い	3
・ 勤勉	2
・ ワークライフバランスの意識高い	

10. 女性の呼吸器外科医が回答者のもとにいる場合、彼らのキャリアアップを積極的に勧めたり、サポートしたりしようと思うか。もしくはしたことがあるか

「ある」理由	
・ 男女平等	26
・ 一人の後進呼吸器外科医として指導することは当然	11
・ 呼吸器外科医を増やすためマンパワーの確保のため	8
・ 社会的ニーズのため	6
・ 後進のロールモデルになるように	4
・ 出産育児の復帰後、戦力となるから制限があっても労働力として重要	2

11. 女性の呼吸器外科医がキャリアアップする過程で、男性に対しては不要と思われる配慮が必要だと考えるか

「はい」の理由

- 出産育児による勤務時間や執刀機会
- 人事異動、勤務先・勤務条件の制限
- 復職サポートプログラムの用意
- 評価方法（卒後年数ではなく純粋なスキルでの評価）
- 出産育児に備えた早期のキャリア形成プラン、計画的なライフプラン
- 女性外科医不要論、男性優位の考え方から守る

「いいえ」の理由

- 男女平等、男性も配偶者の出産育児で配慮が必要だから
- 本人次第、申し出により対応
- 配慮が必要では一人前になれない
- 女性に配慮すると男性のモチベーションが下がり全体のレベルが落ちるため

(3) 女性医師向けアンケートC

アンケートA 質問3において「女性」と回答した58名が対象となる。

【回答者背景】

アンケートAから得られるデータで背景を分析した。

尚、呼吸器外科として勤務しているか、また現在の勤務場所については、アンケートAで年代別分析をおこなっている。

図A 呼吸器外科医として勤務

図B 現在の勤務場所

勤務場所での勤務形態を分析する

と、大学病院、あるいはそれ以外の修練認定施設で勤務する女性医師の約50%は「フルタイム当直あり」であった。

図C 現在の勤務場所における勤務形態

1. 妊娠出産育児の経験、もしくは予定があるか
妊娠出産育児の経験もしくは予定については、58 名中 25 名 (43%) で「あり」という回答であった。また、「なし」という回答は 29 名 (50%) に認められた。

1-1 妊娠・出産・育児の後に職場復帰した際、同じ職場へ復帰が可能であったか

回答のあった 23 名中、22 名 (96%) は同じ職場へ復帰可能であった。

1-2 復帰する職場を決める基準

質問 1 の「あり」25 名中 25 名から、「なし」29 名中 11 名から回答を得た。「当直免除や時短勤務などの職場のサポート体制が整っている」

「家族（配偶者や親など）のサポートが得られやすい場所に職場がある」「院内保育所が整っている（病児、24 時間対応など）」「その他」の 4 項目から選択する形式で回答してもらった。「あり」の回答者では、「家族のサポート」と「院内保育所整備」が 20% と同じ割合を占めていた。

図1 妊娠出産育児経験もしくは予定

図1-1 出産後同じ職場へ復帰が可能であったか

図 1-2 復帰する職場を決める基準

2. 妊娠・出産・育児で一時的に臨床現場を離れた場合、何年までなら復帰は可能であると考え
るか

質問1の「あり」25名中24名から、「なし」29名中24名から回答を得た。「あり」の回答者
では71%が復帰可能な期間は「1年」と回答したが、「なし」の回答者では「1年」が41%と「あ
り」の場合と比べて少なく、「2年」「3年」が29%、25%と同程度であった。

3. 妊娠・出産・育児と仕事を両立しようとしたとき、必要だと思うサポートはなにか

質問1の「あり」25名中25名から、「なし」29名中26名から回答を得た。「保育所の完備」
「当直免除」「時短勤務」「その他」から一つを選択してもらい、「その他」を選択した場合は、具
体的に自由記載してもらった。「あり」「なし」の回答者とも、「保育所の完備」が最多となり、「当
直免除」「時短勤務」と続いているが、「その他」も多く認められた。「その他」の自由記載では、
同僚の理解や柔軟な職場環境を挙げた回答が最も多く、一方で選択枝が一つであったことから複
数選択回答のため「その他」とした例も認められ、設問回答方法に不備があったと考えられる。

4. 現在の職場に女性医師のサポート体制はあるか

質問 1 の「あり」 25 名中 24 名から、「なし」 29 名中 29 名から回答を得た。「あり」回答者の 75%、「なし」回答者の 41%がサポート体制はあると回答している。

4-1 「ある」場合、満足しているか

質問 4 のサポート体制が「ある」と回答したうち、「満足している」と回答した割合はそれぞれ 89%、75%であった。

4-2 どのようなサポートがあるとよいか (自由記載)

質問 1 「あり」「なし」で分けて分類したところ、「あり」回答者では保育所関連や時短・

当直免除などの勤務体制に関するサポートの意見が多く認められた。また、「なし」回答者では勤務環境に関するサポートの意見が多く認められた。複数の意見記載も認められ、複数回答として分析した。

5. 男性の医師と比較して執刀の機会や学会発表の機会は均等だと感じるか（感じていたか）
問1の「あり」25名中25名から、「なし」29名中29名から回答を得た。均等であると感じている割合はそれぞれ76%、86%と多く認められた。

6. 国内外への留学や研修の機会を、女性医師という立場であきらめたことがあるか

問 1 の「あり」 25 名中 25 名から、「なし」 29 名中 29 名から回答を得た。「あきらめたことがある」という回答はそれぞれ 36%、21%であり、妊娠出産育児の経験がある、もしくは予定している回答者においてやや多く認められた。

7. ハラスメントを受けたと感じたことがあるか

問 1 の「あり」 25 名中 25 名から、「なし」 29 名中 29 名から回答を得た。「ある」という回答はそれぞれ 52%、59%であり、半数以上がハラスメントを受けたことがあると感じている。

7-1 「ハラスメントを受けたと感じたことがある」を選択した場合、誰からか

問 7 で「ある」と回答した 30 名を対象に、「職場の上級医」「職場の同僚医師」「患者」「医師以外の職員」「その他」から複数選択回答してもらった。妊娠出産育児経験もしくは予定「あり」「なし」いずれも上級医からのハラスメントが最も多く認められた。「その他」は具体的に回答してもらい、「院長」「職場の後輩医師」と回答された。

8. これまでの医師生活で、女性であることがメリットであると感じたことはあるか

問1の「あり」25名中25名から、「なし」29名中28名から回答を得た。「女性であるメリットを感じたことがある」という回答はそれぞれ76%、68%であった。

8-1 問8で「ある」と回答した場合、具体的にどのような点か（自由記載）

回答の内容を類似性で分類したところ、患者や家族との関係性でメリットを感じる人が多い傾向であった。

その他少数意見として、右記のような記載も認められた。

- メリットの具体例 その他
- 女性登用で活躍できる
 - 学会発表機会が多い
 - 働きぶりによっては良い目立ち方ができる
 - キャリアを諦めても母親業を選択したと言い訳できる
 - 手が小さいため手術で重宝がられる
 - わがママが許される

9. これまでの医師生活で、女性であることがデメリットであると感じたことはあるか

問 1 の「あり」25 名中 25 名から、「なし」29 名中 28 名から回答を得た。「女性であるデメリットを感じたことがある」という回答はそれぞれ 80%、75%であった。

9-1 問 9 で「ある」と回答した場合、具体的にどのような点か (自由記載)

回答の内容を類似性で分類したところ、職場や患者家族からの偏見は出産経験予定の有無にかかわらず同様に認められたが、妊娠出産に伴うデメリットは経験予定有の場合に特に多く認められた。

その他少数意見として、右記のような記載も認められた。

デメリットの具体例 その他

- 自分の時間がない
- 改名
- セクハラ
- 暴力患者への対応
- 看護師に間違えられる
- 不妊治療への無理解
- 漠然といつまで続けられるか不安
- 化粧しなくてはいけない
- 上司に気を使われすぎる 同じように指導してほしい
- 同性の上級医に出会えない

10. 呼吸器外科学会に対して希望する「あったらいいな」と思うサポート、もしくはぜひとも要望することはあるか

自由記載で回答してもらった。58名中25名（43%）から回答を得た。専門医などの資格更新や女性医師同士の交流、資格や就職に関するサポートなどに関する希望が多く認められた。内容を類似性でまとめて図10に示す。

その他少数意見として、右記のような記載も認められた。

呼吸器外科学会に対する希望 その他

- 学会に参加できない場合のウェブ上サービス
- 男性医師への育児 介護サポート
- 呼吸器外科医が過労死しないよう、休暇取得の啓蒙
- 呼吸器外科医が少ない病院への関連病院からサポートなどの啓蒙
- 産休、育休中の学会費免除
- 男女に限らず継続勤務できるよう啓蒙
- 呼吸器外科医を増やすためのアピール
- 座長や委員会での女性の登用
- 技術面での到達目標の設定
- 女性医師が勤務する病院の公表

(4) まとめ

今回の調査は、呼吸器外科学会会員全てを対象とし、回答率が 13.7%であった。そのため、アンケートの分析結果が呼吸器外科学会会員全体の意見を反映しているとは言い難いが、女性呼吸器外科学会会員に限定した回答率は 24%であり、1/4 から回答を得ている結果となっている。

アンケート A では、男女別かつ年代による傾向の相違を検討するため、細かい分類の解析をおこなった。結果、女性の 51 歳以上が 2 名しか含まれず、この群においては評価が困難であったが、そのほかの各群には一定数が含まれ検討結果は評価可能と思われる。

女性は、男性と比べて専門医や学位などの取得が低い年代ほど少なく、理由として出産や育児を挙げる場合も認められた。また勤務内容については 50 歳以下の女性では同世代の男性と比べてフルタイム当直なしの形態が多く認められた。配偶者・パートナーがフルタイム勤務をしている割合も女性で圧倒的に多く、子供のケアを担う対象にも大きな差が認められた。

家庭の事情で遠隔地へ職住変更となっても、男女とも 8 割前後は呼吸器外科を継続したいと回答している。しかし、女性はキャリアアップや経験・業績に関する少なさを感じる割合が多く、将来責任ある立場に就きたいと考える女性も男性と比べて少ない傾向であった。経験・業績に関する意欲は男女とも差がないことから、いかに女性医師の不安を取り除いて呼吸器外科医を継続していけるような環境を作るかが、課題と考える。

アンケート B では、多くの施設で呼吸器外科医が 2~3 名という少人数で勤務している状況があり、それらの多くの施設では女性呼吸器外科医は勤務していないことが判明した。施設責任者による女性への配慮は、様々な観点で「配慮する」「配慮しない」という意見が回答されているが、妊娠・出産・育児については配慮し、男女平等の観点からは配慮しない、というスタンスが多いと感じられた。

また、男女問わず、業務の軽減が必要な医師が発生する状況が考えられるが、多くの施設では残りの医師がサポートする形となり、加えてサポートする側への配慮が十分ではないという状況が窺えた。女性医師が業務軽減を必要とする状況になった場合、施設全体の呼吸器外科医が多数勤務していないと十分なサポートができない可能性もある。

アンケート C では女性医師を対象に行い、妊娠出産育児の経験もしくは予定の有無によってわけて解析をおこなった。経験もしくは予定のある場合、ない場合に比べて経験・業績の少なさを感じる人が多いという結果であった。また、臨床現場を離れた場合、復職可能とおもわれる期間として、施設責任者や妊娠出産育児経験もしくは予定のない女性医師の約半数が 2~3 年と回答しているのに比べ、経験もしくは予定のある女性医師の 7 割が 1 年と回答している。このことは、復帰まで 1 年を超えてしまう場合、復帰自体をあきらめてしまう可能性も示唆される。1 年以内での復帰が可能となるようなサポートが必要と考える。

呼吸器外科学会に対しても様々な要望が出されており、可能と思われる点については、積極的に学会としてサポートしていく対策をとるべきであろう。

利益相反

今回の報告書について申告する利益相反は以下の通りである。

土田正則

奨学（奨励）寄付：

2017 年 日本ライフライン株式会社

2019 年 新潟県厚生連農業協同組合連合会、立川メディカルセンター（医療法人）

中島淳

奨学（奨励）寄付：

2019 年 アステラス製薬株式会社

中村廣繁

講演料：

2018 年 アストラゼネカ株式会社、インテュイティブサージカル合同会社

2019 年 インテュイティブサージカル合同会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

奨学（奨励）寄付：

2017 年 ファイザー株式会社、中外製薬株式会社、コヴィディエンジャパン株式会社

2018～2019 年 中外製薬株式会社、コヴィディエンジャパン株式会社

長谷川誠紀

奨学（奨励）寄付：

2017～2018 年 大鵬薬品工業株式会社、日本イーライリリー株式会社

千田雅之

奨学（奨励）寄付：

2017 年 アステラス製薬株式会社

2019 年 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、コヴィディエンジャパン株式会社、小野薬品工業株式会社

編集委員会からのコメント

この度「女性呼吸器外科医師の職場における環境や問題点を把握する実態アンケート調査報告書」を、PDF で掲載致します。

この報告書は、日本呼吸器外科学会の男女共同参画女性医師支援部会が、女性呼吸器外科医師の支援を行うための問題点を把握する目的で実施したアンケート結果をまとめたものです。アンケートの対象者は全呼吸器外科学会員・基幹施設修練責任者もしくは関連連絡責任者・女性医師で、アンケート実施期間は、2016 年 11 月 21 日～12 月 22 日と少し前にさかのぼります。また、学術集会で報告してまいりましたが、現場の生の声を反映した貴重なデータであることから、長文になりましたが、常任編集委員会及び理事会の承認を得て、すべてのデータをお示しするものです。

今後も同様なアンケートが実施されるものと思いますが、過去のデータと比較することはとても重要と考えますので、将来を見据えて今回のデータを記録に残すことに致しました。

アンケートを実施し、まとめていただきました、男女共同参画女性医師支援部会の皆様に感謝申し上げ、問題点の把握が女性呼吸器外科医の支援につながることを期待しております。

編集委員会委員長 土田 正則